

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズランドまめの木 ばらき校(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○保護者評価有効回答数	令和7年 11月 20日 ~ 令和7年年 12月 20日			
○従業者評価実施期間	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○従業者評価有効回答数	令和8年 2月 21日			
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 21日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心してできる場所、楽しく通える場所となっている。	子どもたちが興味を持てるようなプログラム作りを行っている。また学校休業日などは子どもたちがしたいことの意見を取り入れた内容にしている。 日々の子どもたちの様子をノートに記したりミーティングを行って共有し、それぞれの状態を把握して適切に対応できるように心がけている。	楽しめるプログラム作りやミーティングなどでの情報共有は継続して行っている。 子どもたちの様子をより理解していけるよう、観察や会話を欠かさず、本人との関りを大事にしていく。
2	楽しみながら学べ、固定化しないようなプログラム作りが行えている。	事業所の『楽しく通える』という方針を主として、遊びやゲーム感覚で取り組める、また5領域を意識したプログラム作りを行っている。	子どもたちの能力や発達段階で課題の難易度や構成を変化させているが、より一人ひとりに合わせ個別的に課題設定を行いたい。
3	異年齢の交流を通じてコミュニケーションや社会性を学べるように支援している。	放課後等デイサービスの利用者もいるため、集団活動の際は年上の子とペアを組ませたりしている。年上の子の行動を真似することで模範行動の学習につながっている。また、年上の子どもたちがやっている課題を見ることができ環境のため、やってみたい挑戦してみたいというチャレンジ精神がわき、様々なことを経験するきっかけとなっている。	異年齢同士の関りができる環境は継続させていく。社会性やコミュニケーションスキルの向上につながるような課題・プログラム作り役に役立てていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者から、連絡帳でのやりとりでは分からない状況や課題についてお迎えの際に聞かせてほしいという意見をいただいた。もっと状況を知りたいと思っている保護者がいる。	送迎の際はその日の様子をお伝えするようにしており、職員によってはその日の活動の様子がみられないこともあり、詳しい状況を伝えられない場合があったかもしれない。 面談は年1回で行っているが、まとまった時間をとって話し合える機会はそれだけとなっていた。送迎の際の短い時間では保護者が知りたいと思えることを十分に伝えられていない場合がある。	その日の利用者の様子や伝達事項、保護者への相談や提案など、送迎の前に職員間で共有し、誰が送迎に行っても必要なことを保護者へ伝えられるようにする。  今年度途中からモニタリングの時期に合わせてアンケートを実施するようになった。そこに面談の希望を伺う項目も設けた。保護者の希望や利用者の状況を見て時間をとって話し合う必要があると判断した場合、逐次面談を行って課題の共有を行っていく。
2	保護者同士の交流の機会が少ない。	事業所全体の保護者会は年1回開催。また同日に各事業所で親子参加型のレクリエーションも行っているが、保護者同士が交流できる時間を取ることが出来ていなかった。職員も経験不足でその点に配慮した企画を立てることが出来ていなかった。	今後は保護者同士がゆっくりと交流できる場を作るよう、企画作りを行っていく。
3	日々のミーティングでの情報共有は出来ているが、個別支援計画と連動して支援が行えていないこともある。	個別支援計画の共有が十分でない。	個別支援計画の共有を進めていく。日々のミーティングで子どもたちの様子を共有しているが、そこから一歩進めて計画作りやモニタリングの際も広く職員に参加してもらう。職員みんなで計画たてて実践していくことの意識を持つ。